

# SSH通信



**KKB**  
教育開発部

発行所  
島根県立出雲高等学校  
〒693-0001  
島根県出雲市今市町 1800  
TEL 0853-21-0008  
FAX 0853-22-7855  
izumokoko@edu.pref.shimane.jp

## 教育開発部長より

出雲高校は SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されてから 12 年目を迎え、昨年度からは第Ⅲ期がスタートしました。本校の SSH 事業の大きな柱は課題研究です。まずは身近な問題に目を向けてグループで相談しながら課題を発見します。そして、課題を解決するための方法を仮説として設定し検証していきます。

研究の過程において、「デザイン思考」と呼ばれる手法を取り入れた本校独自の課題研究プログラム「デザインズム (Design-izm)」により、生徒の主体的で分野横断的な学びを育成していきます。しかし、毎日身の回りで生じる事象に対して課題意識が弱く、課題を見つけられないことに苦労している生徒もいます。

第Ⅲ期では、1 年生の「SS 探究基礎」・「Basic Science」において、課題に気付く力を育成する授業を展開し、1～3 年生のすべての授業において教科学習も探究的な視点を取り入れた「授業の SS 化」に取り組んでいます。ホームページでも紹介しています。どうぞご覧ください。

出雲高校教育開発部 山根宏樹

## 第1回SSパワーアップセミナーを開催！

7 月 8 日（月）出雲市民開会で第 1 回 SS パワーアップセミナーを開催しました。講師に東大野球部元監督、土佐中学・高校校長（「AI 西武学院」塾長）の浜田一志先生をお招きし、「文武両道のすすめ～東大野球部員に学ぶ～」という演題で講演をしていただきました。

生徒たちに考えさせる場面をたくさんつくっていただき、部活動と勉強について素晴らしい学びの時間となりました。



### ★生徒の感想★

- 文武両道とは勉強と部活動を両立させることではなく、多様性の中で努力し続けることだと知ることができました。
- 努力することは誰もできるので、自分にレッテルをはるのではなく、限界値を決めつけずにこれから学習と向き合いたいです。
- 身近な人をお手本にすることに驚きました。これからは身近に努力している人を見習いお手本としていこうと思います。

## 2年 SS 探究発展 A・B の研究がスタート！

出雲高校の SSH の取組の中心は 2 年次に行う「課題研究」です。

今年度も理数科は「数学／物理／化学／生物／地学」の 5 分野、普通科理系は「数  
理情報学／物質科学／生命・食農／生活科学」の 4 分野、そして普通科文系は「地  
域共生システム／環境・エネルギー／多文化共生システム」の 3 分野に分かれて研  
究をスタートさせています。

4 月からスタートした課題研究は、まず研究テーマの「種」を探ることから始まり  
ました。自分たちの興味があるもの、身の回りで不思議に感じていることなど  
について文献調査を行い、集めた情報を整理し分析することで研究テーマの設定に繋  
げました。現在、多くの班が研究テーマの設定が終わり、実際どのように研究を進  
めていくのかについて研究計画を作成しています。そしていよいよ、2 学期からは本格的  
な調査活動の開始です。

今年も、多くの班が試行錯誤しながらも、  
課題研究でしかできない貴重な経験を通して  
成長してくれることを期待しています。

課題研究の様子



## 1年理数科 島大研修が開催されました！

7 月 17 日（水）島根大学医学部とオンライン接続により「最先端科学の体験型  
フィールド学習」がリモート開催され、島根大学地域未来本部の教授である中村守  
彦先生が講師を務めてくださいました。午後からの「DX 学習」には普通科の希望者  
9 名も参加しました。

### ★研修内容★

- 国際特許取得技術  
・先端医学研究 島根大学が開発した酸化亜鉛ナノ粒子の蛍光観察
- 国内特許取得技術  
・救急医療 フェイスシールド、マグネット鉗子およびハンズフリー音声認識システム
- ・看護医療 ハンズフリー LED ライト、点滴事故防止システム、検査治療パンツ
- ・医療栄養 制限食支援システム、制限食の実食
- ・DX 学習 一人一台端末で薬理学実習シミュレーターを体験

様々な体験をさせていただき有意義な時間  
となりました。最後のまとめでは、中村先  
生から「失敗を恐れず、すべての学問を生  
きたものにしてほしい」という貴重なメッ  
セージをいただきました。

